

学部	理工学部	学科	創生工学科	コース	機械コース	最終更新日	令和3年(2021年)12月17日
----	------	----	-------	-----	-------	-------	-------------------

ディプロマポリシー	
1	専門的知識・技能の活用 学科における体系的な専門学習を通して、機械工学に関する深い専門知識とその応用力を修得し、自らのライフデザインに活かすことができる。
2	コミュニケーション能力 ・広範で多様な学習を通して、豊かな教養と社会性および国際性を有し、倫理観を持って社会の発展に貢献できる。 ・自分の意見を論理的に説明できるコミュニケーション能力と、他者と協調・協働して計画的に問題解決が行える行動力とリーダーシップを持っている。
3	創造的問題解決力 知識と収集した情報を総合的に分析し活用する論理的思考ができるとともに課題の探求や解決ができる。
4	社会的責務と倫理 広範で多様な学習を通して、豊かな教養と社会性および国際性を有し、倫理観を持って社会の発展に貢献できる。
5	地域発展・人類福祉への貢献 広範で多様な学習を通して、豊かな教養と社会性および国際性を有し、倫理観を持って社会の発展に貢献できる。
6	生涯学習力 ・学科における体系的な専門学習を通して、機械工学に関する深い専門知識とその応用力を修得し、自らのライフデザインに活かすことができる。 ・自立した技術者になるために、学ぶべき内容を把握し、自ら目標を立て、生涯にわたって継続的に学習できる。

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業（修了）判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準																			
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8												
1	実施中	外部機関による評価	JABEE 認定評価	通年	6年毎	1~4年生	ディプロマポリシーとカリキュラムの対応、授業改善の取り組み、シラバスとカリキュラムの対応、成績評価方法の妥当性	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
2	実施中	民間試験	TOEIC	4月	毎年	1年生	スコアの評価		●		●	●																								
3	実施中	質問紙	卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」	3月	毎年	卒業予定者	カリキュラム満足度、学習達成度、学生生活の満足度	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
4	実施中	成績判定資料	留年・休学・退学の学生数と理由の分析	3月	毎年	全学年	留年・休学・退学の学生数とその理由																													
5	実施中	成績分布表	成績分布表のチェック	4月	毎年	全学年	成績分布の偏りの大きな科目の抽出	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	実施中	質問紙	学生による授業評価「授業改善のためのアンケート調査」	各学期末	毎年	全学年	授業満足度	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	実施中	卒業論文、卒業研究発表	卒業研究発表	2月	毎年	4年生	技術的・科学的理解力、プレゼンテーション力、報告書作成力	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	実施中	数学プレイスメントテスト	数学プレイスメントテスト	4月	毎年	1年生	コースごとの平均・取得点分布	●							●																					
9	実施中	報告会	PBL 型授業でのプレゼンテーション	7, 2月	毎年	3年生	課題の達成度、プレゼンテーション力	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

学部	理工学部	学科	創生工学科	コース	電気電子コース	最終更新日	令和3年(2021年)12月17日
----	------	----	-------	-----	---------	-------	-------------------

ディプロマ・ポリシー	
1 専門的知識・技能の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として必要な広い教養を身につけ、電気電子工学の基礎知識を備えている。</li> <li>・電気電子技術者・研究者として必須の基礎専門知識である「電気磁気学」「電気回路」を修得し、使いこなすことができる。</li> <li>・基礎専門知識を基に、「電力エネルギー工学」「制御工学」「情報通信」「電子デバイス」等に代表される専門知識を体系的に修得している。</li> <li>・電子情報通信機器をはじめとするシステムを設計・構築する上で必要となるハードウェアとソフトウェアの両方の知識を備え、運用することができる。</li> <li>・実験・実習・卒業研究を重視したカリキュラムを通して、技術者・研究者として必要な、計測を始めとする基本的な実用技能を修得するとともに、専門知識を実際の現象と結びつけて理解できている。</li> <li>・卒業研究等を通して、自ら課題を探索し、解決していく能力と物事を論理的に説明できる能力を身につけている。</li> </ul>
2 コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習・卒業研究を重視したカリキュラムを通して、技術者・研究者として必要な、計測を始めとする基本的な実用技能を修得するとともに、専門知識を実際の現象と結びつけて理解できている。</li> <li>・卒業研究等を通して、自ら課題を探索し、解決していく能力と物事を論理的に説明できる能力を身につけている。</li> </ul>
3 創造的問題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子情報通信機器をはじめとするシステムを設計・構築する上で必要となるハードウェアとソフトウェアの両方の知識を備え、運用することができる。</li> <li>・実験・実習・卒業研究を重視したカリキュラムを通して、技術者・研究者として必要な、計測を始めとする基本的な実用技能を修得するとともに、専門知識を実際の現象と結びつけて理解できている。</li> <li>・卒業研究等を通して、自ら課題を探索し、解決していく能力と物事を論理的に説明できる能力を身につけている。</li> </ul>
4 社会的責務と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習・卒業研究を重視したカリキュラムを通して、技術者・研究者として必要な、計測を始めとする基本的な実用技能を修得するとともに、専門知識を実際の現象と結びつけて理解できている。</li> <li>・卒業研究等を通して、自ら課題を探索し、解決していく能力と物事を論理的に説明できる能力を身につけている。</li> </ul>
5 地域発展・人類福祉への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習・卒業研究を重視したカリキュラムを通して、技術者・研究者として必要な、計測を始めとする基本的な実用技能を修得するとともに、専門知識を実際の現象と結びつけて理解できている。</li> <li>・卒業研究等を通して、自ら課題を探索し、解決していく能力と物事を論理的に説明できる能力を身につけている。</li> </ul>
6 生涯学習力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習・卒業研究を重視したカリキュラムを通して、技術者・研究者として必要な、計測を始めとする基本的な実用技能を修得するとともに、専門知識を実際の現象と結びつけて理解できている。</li> <li>・卒業研究等を通して、自ら課題を探索し、解決していく能力と物事を論理的に説明できる能力を身につけている。</li> </ul>

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準									
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8		
1	実施中	質問紙	卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」	3月	毎年	卒業予定者	カリキュラム満足度, 学習達成度, 学生生活の満足度	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	次年度以降のカリキュラム改善, 学生支援へ利用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	実施中	客観試験	卒業試問	2月	毎年	4年生	卒業研究完成度	●	●	●	●	●	●	コース全教員	コース長	自ら課題を探索し、解決していく能力と物事を論理的に説明できる能力を評価する。その結果を次年度以降の卒業研究指導に活かす。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	実施中	成績分布表	成績分布の適切性の検証	8, 3月	毎年	全学年	成績評価の分布	●	●	●	●	●	●	コース全教員	教学マネジメント室・教育支援課	次年度以降の授業および成績評価に活かす。成績評価の偏りの大きな科目については、厳密な評価がなされているか確認する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	実施中	成績判定資料	成績不振学生の調査	10, 4月	毎年	1, 2, 3年生	取得単位数と評価値の低い学生に対してインタビュー調査	●						コース全教員	コース長	指導教員による成績不振学生からの聞き取り調査内容を集約し、カリキュラムおよび講義内容の改善に資す。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	実施中	成績判定資料	3年次進級の学生数と理由の分析	3月	毎年	2年生	留年学生数と理由	●						コース全教員	コース長	留年生は指導教員を中心にして留年を繰り返さないように指導する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	実施中	成績判定資料	卒業研究着手学生数と理由の分析	3月	毎年	3年生	留年学生数と理由	●	●					コース全教員	コース長	留年生は指導教員を中心にして留年を繰り返さないように指導する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	実施中	質問紙	学生による授業評価「授業改善のためのアンケート調査」	各学期末	毎年	全学年	授業満足度	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	学生の自己評価と省察を教員にフィードバックし、次年度以降の授業の改善に活かす。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

8	実施中	客観試験	PBL 型授業でのプレゼンテーション	7, 1月	毎年	3年生	PBL 課題の理解度, 自ら説明する能力	●●●●●●	コース全教員	コース全教員	次年度以降の実験科目を含めた PBL 型授業に活かす。	●●●●
9	実施中	質問紙	電気電子工学入門時アンケート	前期	毎年	1年生	電気電子工学の基礎知識の理解度	●	学生	コース全教員	学生の自己評価により電気電子工学の基礎知識を確認するとともに, 次年度以降の授業に活かす。	●●●●
10	実施中	民間試験	TOEIC	4月	毎年	1年生	スコアの評価	●	国際ビジネスコミュニケーション協会	国際ビジネスコミュニケーション協会	入学時のスコアによる学生の語学レベルの確認と1年生への指導に活かす。	●●●●●
11	実施中	試験	数学プレースメントテスト	4月	毎年	1年生	コースごとの平均・取得点分布	●	教務委員会	教務委員会	入学時のスコアによる学生の数学レベルの確認と1年生への指導に活かす。	●●●●

学部	理工学部	学科	創生工学科	コース	福祉メカトロニクスコース	最終更新日	令和3年(2021年)12月17日
----	------	----	-------	-----	--------------	-------	-------------------

ディプロマ・ポリシー	
1 専門的知識・技能の活用	数学・物理学・電気工学・機械工学の基礎知識と、その統合技術としての計測工学・制御工学・情報システム工学・福祉工学などを含むメカトロニクス技術の専門知識を体系的に身につけている。
2 コミュニケーション能力	・語学力を含めた幅広い教養を持ち、倫理観を持って社会の発展に貢献できる。 ・自分の意見を論理的に説明できるコミュニケーション能力と、他者と協調・協働して計画的に問題解決が行える行動力を持っている。
3 創造的問題解決力	自分の意見を論理的に説明できるコミュニケーション能力と、他者と協調・協働して計画的に問題解決が行える行動力を持っている。
4 社会的責務と倫理	・語学力を含めた幅広い教養を持ち、倫理観を持って社会の発展に貢献できる。 ・複合的な課題に対して問題点を見つけ出し、論理的で柔軟な思考により、解決することができる。 ・福祉社会の実現に自らの知識を役立てるといふ、技術者、研究者としての責任と使命を理解している。
5 地域発展・人類福祉への貢献	福祉社会の実現に自らの知識を役立てるといふ、技術者、研究者としての責任と使命を理解している。
6 生涯学習力	学ぶべき内容を把握し、自ら目標を立て、継続的に学習できる。

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準									
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8		
1	実施中	論文	卒業論文	通年	毎年	卒業研究着手学生	科学的理解力, 報告書作成力	●	●	●	●	●	●	コース全教員	卒業論文審査会	評価基準に照らして評価し、カリキュラムの総合的な妥当性の把握と卒業研究の基礎となる専門教育科目カリキュラム編成の改善に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	実施中	報告会	卒業研究発表	2月	毎年	卒業研究着手学生	科学的理解力, プレゼンテーション力	●	●	●	●	●	●	コース全教員	卒業論文審査会	4年間の集大成として学生の自己評価と将来に向けた学生の啓発に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	実施中	報告書	実験・演習科目におけるレポート	通年	毎年	2~3年生	単位取得状況の確認と成績分布	●			●	●	コース全教員	指導教員会議	課題実施状況やレポートの完成度合を評価し、カリキュラム・学生の理解度改善に資する。					●	●	●				
4	実施中	プレゼンテーション	基礎理工学PBL及び応用理工学PBL	通年	毎年	3年生	科学的理解力, プレゼンテーション力	●	●	●	●	●	●	コース教員及び理工学部教員	理工学部	課題解決に向けたグループにおける論理的解決法やプレゼン能力を評価し、内容や評価方法の検証や改善を行う。					●	●	●	●		
5	実施中	成績判定資料	成績判定資料	3月	毎年	3年生	成績分布と進級率	●	●	●	●	●	●	教務委員会	教務委員会	留年学生数の把握と、留年生においては留年を繰り返さないように指導する。卒業要件の残単位数が多い学生は不足単位の履修計画について教務委員と配属研究室の教員で指導する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	実施中	質問紙	卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」	3月	毎年	卒業予定者	カリキュラムや学生支援の満足度, 施設・設備等の満足度の評価	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	翌年度以降のカリキュラム編成および学生指導体制の改善に利用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	実施中	取得単位数資料	取得単位数のチェック	3月, 9月	毎年	全学年	各学期毎における継続的な単位取得状況の把握	●	●	●	●	●	●	教務委員会	教務委員会	学生の取得単位数の状況を評価基準に照らして評価し、不足のある学生は教務委員を中心に個別指導を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	実施中	民間試験	TOEIC-IP 英語検定試験	4月	毎年	1年生	取得点数の評価		●		●	●	国際ビジネスコミュニケーション協会	国際ビジネスコミュニケーション協会	入学当初の語学力の確認と、1年生の指導に活用する。また、語学カリキュラムのアセスメント指標とし、次の1年生の指導に資する。				●	●	●	●				
9	実施中	質問紙	学生による授業評価「授業改善のためのアンケート調査」	各学期末	毎年	全学年	カリキュラム等満足度	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	学生の目線で見られた授業評価を把握し、次年度以降の授業やカリキュラム構成の改善に活かす。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

学部	理工学部	学科	創生工学科	コース	建築学コース	最終更新日	令和3年(2021年)12月17日
----	------	----	-------	-----	--------	-------	-------------------

ディプロマ・ポリシー	
1 専門的知識・技能の活用	将来の建築学の発展や、関連する多様な分野へ継続し得るような、建築計画・設計、建築構造、建築環境・設備、建築材料・生産、その他にわたる基礎的かつ包括的な知識を身につけている。
2 コミュニケーション能力	・現代の文化と文明を理解し、自分の専攻分野を超えた学際的な視点を持ち、グローバル化した社会において、国際的な相互理解、協調的な意識のもとに活動できる能力を身につけている。 ・建築学およびその関連領域において、急速に変化し、多様化する社会の要請を広い視野を持つて的確に理解し、柔軟に対応できる能力を持ち、学習した成果や研究によって得られた成果を理論的に記述し、口頭で発表し、討論するためのプレゼンテーション能力、および英語による国際的コミュニケーションの基礎的な能力を身につけている。
3 創造的問題解決力	・工学技術の基礎となる数学、自然科学、情報技術等に関する基礎的知識を習得し、応用することができる能力を身につけている。 ・与えられた建築的課題に対し、自己の持つ能力を発揮して、限られた制約の中で適切な計画を立て、合理的に実行することのできる能力を身につけている。
4 社会的責務と倫理	工学技術が社会の環境と人間生活に及ぼす影響を的確に把握し、適切に対応できるように、技術者として倫理観と豊かな人間性を身につけている。
5 地域発展・人類福祉への貢献	建築に関する科学・技術情報を収集し、大学の学習で得られた専門的知識と統合し、社会的要請に基づいて、造形性、機能性、バリアフリーなどの福祉性、構造的合理性を実現した建築物や環境空間を企画し、設計し、それを図面やコンピュータなどのメディア上に表現し、その内容を伝達する能力を身につけている。
6 生涯学習力	建築学およびその関連領域において、急速に変化し、多様化する社会の要請を広い視野を持つて的確に理解し、柔軟に対応できる能力を持ち、学習した成果や研究によって得られた成果を理論的に記述し、口頭で発表し、討論するためのプレゼンテーション能力、および英語による国際的コミュニケーションの基礎的な能力を身につけている。

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準との対応									
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8		
1	実施中	Web アンケート、質問紙	卒業生アンケート	常時	3年	卒業生	活躍分野、カリキュラムの満足度、建築士取得状況、技術士取得状況、建築施工管理技士取得状況、民間資格取得状況、改善提案	●	●	●	●	●	●	卒業生	JABEE 教育改善検討会議	カリキュラムの総合的な評価指標とし、カリキュラム編成の改善に利用している。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	実施中	Web アンケート、質問紙、ヒヤリング	企業アンケート	常時	3年	業界団体、就職先企業、非常勤講師	求められる学生像、社会の要請	●	●	●	●	●	●	業界団体、就職先企業、非常勤講師	JABEE 教育改善検討会議	社会の要請を整理し、カリキュラムの改善に利用している。	●	●	●							●
3	実施中	質問紙	達成度自己評価	3月	毎年	全学年	各科目の到達目標に対する達成度	●	●	●	●	●	●	学生	JABEE 教育改善検討会議	教育目標に対する達成度の確認と、カリキュラムの改善に利用している。			●		●					
4	実施中	資料保存	講義・成績資料の保管	3月、9月	毎年	全教員	各科目の講義資料、成績評価に用いた資料	●	●	●	●	●	●	教員	JABEE 教育改善検討会議	厳密な成績評価実施の確認と、カリキュラムの改善に利用している。					●	●				
5	実施中	調査・点検	教育環境の点検	3月、9月	毎年	関連教育施設	教育施設の広さや安全性、教育機器の充実度や不具合	●	●	●	●	●	●	教員	JABEE 教育改善検討会議	課題を整理し、授業改善に利用している。			●	●						
6	実施中	質問紙	学生による授業評価	8月、2月	毎年	全学年	各科目の魅力、理解度・到達度、授業改善の要望	●	●	●	●	●	●	学生	教務委員会	アンケート結果を整理して教員にフィードバックし、授業改善に利用している。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	実施中	報告会資料、プレゼンテーション	インターンシップ報告会		毎年	2・3年生	報告会で発表した内容の達成度、プレゼンテーション力		●		●	●	●	教員	教務委員会	個々の学生のプレゼンテーション能力を把握し、コースにおける指導に利用している。			●	●						
8	実施中	発表会資料、プレゼンテーション	PBL 型授業発表会	前期・後期	毎年	3年生	発表会で発表した内容の達成度、プレゼンテーション力		●		●	●	●	教員	教務委員会	個々の学生のプレゼンテーション能力を把握し、コースにおける指導に利用している。			●	●	●	●				
9	実施中	成績分布表	成績分布状況の確認		毎年	全学年	抽出科目の成績分布の確認	●	●	●	●	●	●	教員	建築学コース	成績評価の偏りを確認し、カリキュラム改善に利用している。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
10	実施中	成績集計	進級判定	9月、3月	毎年	3年生	進級ならびに留年の学生数、留年理由	●	●	●	●	●	●	教員	建築学コース	成績不振者の再履修・再試験科目を共有し、個別指導に利用している。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
11	実施中	卒業論文、発表資料	卒業論文審査	2月	毎年	4年生	卒業論文の完成度、発表内容	●	●	●	●	●	●	教員	建築学コース	卒業論文の完成度を評価し、その結果を次年度以降の卒業研究指導に活かしている。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

学部	理工学部	学科	共創理工学科	コース	数理科学コース	最終更新日	令和3年(2021年)12月17日
----	------	----	--------	-----	---------	-------	-------------------

ディプロマ・ポリシー	
1	<p>専門的知識・技能の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な人間力として、広い範囲の学問に対して基礎学力を備え、日常生活に活用することができる。</li> <li>・ 専門的な知識とその活用力として、数学に関する基礎知識や基礎技能を備えている。正しい論理の積み重ねにより議論を進めることができる。抽象的な対象に対して、具体的なイメージを思い浮かべることができる。</li> <li>・ 与えられた課題や自ら見つけた課題に対して、数理的な専門知識に基づいて、課題を表現・理解し、多角的、総合的な考察に基づく解決法を提案することができる。</li> </ul>
2	<p>コミュニケーション能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見を明確に述べるとともに、他者の考えを理解しようと努力することができる。グループとして目標を共有し、協調して計画的に達成することができる。</li> <li>・ 国際社会で活躍するに足る語学力を身につけている。</li> </ul>
3	<p>創造的問題解決力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な人間力として、広い範囲の学問に対して基礎学力を備え、日常生活に活用することができる。</li> <li>・ 専門的な知識とその活用力として、数学に関する基礎知識や基礎技能を備えている。正しい論理の積み重ねにより議論を進めることができる。抽象的な対象に対して、具体的なイメージを思い浮かべることができる。</li> <li>・ 与えられた課題や自ら見つけた課題に対して、数理的な専門知識に基づいて、課題を表現・理解し、多角的、総合的な考察に基づく解決法を提案することができる。</li> </ul>
4	<p>社会的責務と倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人としての素養と責任も持つために、自ら学習目標を立て、新たな知識や適切な情報を取得し活用することができる。自然科学の社会へおよぼす影響を理解し、人間と自然が共存共栄していくための方策を考えることができる。</li> <li>・ 専門的な知識とその活用力として、数学に関する基礎知識や基礎技能を備えている。正しい論理の積み重ねにより議論を進めることができる。抽象的な対象に対して、具体的なイメージを思い浮かべることができる。</li> </ul>
5	<p>地域発展・人類福祉への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人としての素養と責任も持つために、自ら学習目標を立て、新たな知識や適切な情報を取得し活用することができる。自然科学の社会へおよぼす影響を理解し、人間と自然が共存共栄していくための方策を考えることができる。</li> </ul>
6	<p>生涯学習力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会人としての素養と責任も持つために、自ら学習目標を立て、新たな知識や適切な情報を取得し活用することができる。自然科学の社会へおよぼす影響を理解し、人間と自然が共存共栄していくための方策を考えることができる。</li> <li>・ 与えられた課題や自ら見つけた課題に対して、数理的な専門知識に基づいて、課題を表現・理解し、多角的、総合的な考察に基づく解決法を提案することができる。</li> </ul>

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準									
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8		
1	実施中	成績判定資料(取得単位とGPA)	単位取得状況調査	学期終了時	年2	全学年	単位取得状況(カリキュラム上の達成度)	●	●	●	●	●	●	授業担当教員	コース長 教務委員	教育目標の達成度を学業成績に基づき客観的に把握した上で、学生の興味の方向性も勘案しながら、コースの目標を達成する指導方法へとフィードバックする。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	実施中	成績判定資料(取得単位とGPA)	留年/仮進級の学生数と理由の分析	3月	毎年	全学年	留年/仮進級の学生数と理由	●	●	●	●	●	●	教務委員 学生生活委員	教務委員会 コース長	留年や仮進級が繰り返して生じるのを防ぐために、綿密な履修計画を立てるよう学生への指導を徹底するとともに、再挑戦を可能にする柔軟なカリキュラム構成を工夫する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	実施中	成績分布表	成績分布状況の調査	8月-11月	毎年	全学年	偏りの大きな科目のインタビュー調査	●	●	●	●	●	●	教務委員	教務委員会 コース長	成績評価の偏りを見つけ出して、厳密な評価が実施されているかどうかを確認するとともに、教授内容の変更や指導方法の改善に向けて提案を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	実施中	実習評価表	教育実習評価	3年、4年の教育実習終了時	毎年	教育実習参加者	教育実習に対するカリキュラムの有用性	●	●	●	●	●	●	学年担任 指導教員(研究室)	コース長 教務委員 教育実習委員	代表的な教育実践の場である実習校において、身につけた知識、社会性、倫理観などが生かされているかをチェックすることで、今後の指導の力点などを考える。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
5	実施中	質問紙	進路希望調査	3年次後学期開始時	毎年	3年次生	進路希望調査(進学・就職の別、希望職種、活動状況)	●	●	●	●	●	●	就職委員 学年担任	コース長 就職委員	学生の希望する進路を的確に把握しながら、次の時代の社会を担う人材の育成にも資するために、カリキュラム上の不足、障害、不適合などを整理する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
6	実施中	質問紙	学生による授業評価「授業改善のためのアンケート調査」	各学期末	毎年	全学年	理解度・到達度、取り組み状況、満足度、要望	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	各科目の充実度について受講生の立場・観点からの意見を受け入れ、それを担当教員にフィードバックすることにより、カリキュラムの改善に利用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

7	実施中	質問紙	卒研着手時アンケート	卒研配属時	毎年	着手予定者	選択する専門性に対する、興味の偏り、カリキュラムの有用性	●●●	学生	コース長 教務委員	専門分野への興味の広がり調査することにより、カリキュラムとして伝える内容の不足や偏り、非専門科目との有機的な連携の状況を確認する。	●●●●●●●●
8	実施予定	質問紙	卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」	卒業時	毎年	卒業予定者	習得した専門性に対するカリキュラムの有用性	●●●	学生	内部質保証委員会	卒業時点での満足度、将来的な興味の方向性を知ること、社会の種々の問題に適応可能な学生の育成により適したカリキュラムの検討へとフィードバックする。	●●●●●●●●
9	検討中	客観試験	英語外部試験	前期中	毎年	3年次生	スコア、および、その推移	●●●	試験実施団体	コース長 教務委員	入学直後の成績と比較して、日常的・実践的な英語力が維持・増進されているかを判定し、後期の数理科学英語の指導方法の改善につなげる。	●●●●●●●●
10	検討中	質問紙	保護者アンケート	各学期終了後	毎年	全学年	保護者の視線から見た、学生の状態、変化	●●●●●	保護者	コース長 教務委員	各学期終了時に保護者あてに成績表およびその見方を記した文書を送付しているため、保護者から率直な意見・要望を聴取して学生指導に反映させる。	●●●●●●●●
11	実施中	発表会	卒業研究中間発表会・最終発表会	4年次前期・後期	毎年	卒業予定者	卒業研究の進捗状況・到達状況	●●●●●●●●	指導教員（主査、副査）	コース長 教務委員	大学生活4年間の集大成として、専門分野における成果の発表を通して、学術的のみならず人間的な成長が見られるかを評価し、カリキュラム改善の方向性を判断する。	●●●●●●●●
12	実施中	質問紙	大学院進学率調査	4年次後期	毎年	卒業予定者	大学院（本学・他大学）の志望状況・合格状況	●●●●●●●●	指導教員（研究室）	コース長 教務委員 就職委員	地域や社会のリーダーとなる人材の育成を目指すため、大学院において研究を継続するだけの専門的な能力を身につけたかどうかを判定し、カリキュラムの一層の専門化・高度化に役立てる。	●●●●●●●●
13	実施中	質問紙	新入生アンケート	入学直後	毎年	新入生	志望動機、学習履歴、進路希望調査	●●●	学生	コース長 教務委員 学生生活委員	新入生の過去の履歴と将来の希望を把握することにより、学生が大学生活にスムーズになじめるようなカリキュラムと指導体制の構築に役立たせる。	●●●●●●●●

学部	理工学部	学科	共創理工学科	コース	知能情報システムコース	最終更新日	令和3年(2021年)12月17日
----	------	----	--------	-----	-------------	-------	-------------------

ディプロマ・ポリシー	
1 専門的知識・技能の活用	数理的な考えや自然科学のとらえ方を身につけ、情報・知能分野の専門知識・技術を理解し、学理と実地の有機的なつながりを通じて、これらを応用することができる。
2 コミュニケーション能力	・考えや論点を自ら正確に記述・表現して、皆の前で発表し、他者の考えも聴きながら建設的に討議することができる。 ・個人またはチームにより、ソフトウェアやシステムに要求される機能を検討し、期間内に計画的に設計・実装・評価し、まとめあげることができる。
3 創造的問題解決力	・数理的な考えや自然科学のとらえ方を身につけ、情報・知能分野の専門知識・技術を理解し、学理と実地の有機的なつながりを通じて、これらを応用することができる。 ・高度情報社会における情報・知能分野の新たな課題を探求し、問題を整理・分析し、多面的に考えて解決することができる。
4 社会的責務と倫理	情報技術者としての責任と情報技術の社会に及ぼす影響を常に考えながら、グローバル化が進む地域社会にも貢献することができる。
5 地域発展・人類福祉への貢献	情報技術者としての責任と情報技術の社会に及ぼす影響を常に考えながら、グローバル化が進む地域社会にも貢献することができる。
6 生涯学習力	自立した情報技術者になるために、自ら学習目標を立て、適切な情報や新たな知識を獲得し、継続的に学習することができる。

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業（修了）判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準												
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8					
1	実施中	外部評価	認定継続審査	秋	6年毎	専門教育カリキュラム	認定基準に対応する学習・教育到達目標 (DP に対応) をカリキュラムが満たしているかを評価、各科目のパフォーマンス評価、厳密な成績評価が行われているか確認	●	●	●	●	●	●	JABEE 審査員	一般社団法人日本技術者教育認定機構 (JABEE)	自己点検および実地審査によるプログラム点検により問題点を抽出し、カリキュラム編成の改善に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
2	実施中	質問紙	学習・教育到達目標調査	7月, 1月	毎期	全学年	学習・教育到達目標達成度調査	●	●	●	●	●	●	学生	知能情報プログラム教育評価・改善部会	担当教員が学習・教育到達目標達成度を確認し、達成度の改善に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3	実施中	質問紙	学生による授業評価「授業改善のためのアンケート調査」	各学期末	毎年	全学年	シラバスおよび授業満足度, 学生の取り組み状況の評価	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	各科目に対する学生アンケート結果を教員にフィードバックし、各科目の改善に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	実施中	自己点検	科目間調整会議	8~9月, 2~3月	毎期	全科目担当教員	単位取得状況や成績の偏り等の確認, 各科目が対応する DP とそれに対する評価方法の教員相互による確認	●	●	●	●	●	●	科目担当教員	知能情報プログラム教育評価・改善部会	各科目の自己点検および教員相互による点検により問題点を抽出し、シラバスの改善に資する。学生の理解度等を確認するとともに、先修・後修科目との隔たりを確認し、科目間の連携を図る。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
5	実施中	単位取得状況資料	単位取得状況のチェック	3月, 9月	毎期	全学年	実施時期までの継続的な単位取得情報の確認	●	●	●	●	●	●	指導教員	指導教員会議	評価基準に照らして学生の単位取得状況を確認し、基準に満たない学生は、指導教員が不足単位の履修計画などを個別指導する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
6	実施中	成績判定資料	卒業研究着手要件判定	3月	毎年	3年生	単位取得状況の確認	●	●	●	●	●	●	卒業研究着手要件判定会議	指導教員会議	評価基準に照らして学生の単位取得状況を確認し、卒業研究着手要件を判定する。着手不可となった学生は、次年度に着手できるよう指導教員が履修計画等の指導を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
7	実施中	成績判定資料	学位判定, JABEE 修了判定	3月	毎年	4年生	単位取得状況および成績の確認	●	●	●	●	●	●	学位判定会議, JABEE 修了判定会議	指導教員会議	評価基準に照らして学生の単位取得状況を確認し、学位判定を行う。DP に対応する学習・教育到達目標を設定しており、カリキュラムはその基準を身につけられる内容になっている。従って学位を与えられる学生は DP を満たすことを保証している。学位を与えられない学生については、次年度に基準を満たすことができるよう履修計画、卒業論文計画等の指導を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●



8	実施中	質問紙	卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」	2月	毎年	卒業予定者	カリキュラム満足度, 学生支援満足度, 施設・設備の満足度の評価	●●●●●●	学生	内部質保証委員会	結果を翌年度以降のカリキュラム編成および学生指導体制の改善に利用する。	●●●●●●
9	実施中	卒業論文	卒業論文審査	10月, 2月	毎年	卒業研究着手学生	中間発表会におけるプレゼンテーションと質疑応答に対する評価, 卒業論文の評価, 卒業論文発表会におけるプレゼンテーションと質疑応答に対する評価	●●●●●●	卒業論文審査委員	卒業論文審査会	評価基準に照らして評価し, 卒業研究の基礎となる専門教育科目カリキュラム編成の改善に資する。	●●●●●●

学部	理工学部	学科	共創理工学科	コース	自然科学コース
----	------	----	--------	-----	---------

最終更新日	令和3年(2021年)12月17日
-------	-------------------

ディプロマ・ポリシー	
1 専門的知識・技能の活用	・地域・地球環境を素材とした自然科学の基礎学力と応用力を修得している。 ・物質科学、生命科学及び地球科学の知識を基礎に、ものづくりの心を持っている。 ・米国の自然科学系教養科目（CLEP® Natural Sciences）の単位取得が可能な基礎力を修得している。
2 コミュニケーション能力	高い理解力と表現力を持つと共に情報活用能力に長け、地域社会・産業を支えていくことができる。
3 創造的問題解決力	・地域・地球環境を素材とした自然科学の基礎学力と応用力を修得している。 ・地域環境の課題を見つけ、科学的に分析・解決する能力を修得している。 ・物質科学、生命科学及び地球科学の知識を基礎に、ものづくりの心を持っている。 ・高い理解力と表現力を持つと共に情報活用能力に長け、地域社会・産業を支えていくことができる。
4 社会的責務と倫理	高い理解力と表現力を持つと共に情報活用能力に長け、地域社会・産業を支えていくことができる。
5 地域発展・人類福祉への貢献	・地域環境の課題を見つけ、科学的に分析・解決する能力を修得している。 ・高い理解力と表現力を持つと共に情報活用能力に長け、地域社会・産業を支えていくことができる。
6 生涯学習力	高い理解力と表現力を持つと共に情報活用能力に長け、地域社会・産業を支えていくことができる。

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業（修了）判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準												
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8					
1	実施中	成績判定資料	留年／仮進級の学生数と理由の分析	3月	毎年	全学年	留年／仮進級の学生数と理由	●	●	●				教務委員会	教務委員会	留年生は学生生活委員会を中心にして留年を繰り返さないように指導する。仮進級学生は不足単位の履修計画についてコースで指導する。また翻って DP に掲げる各項目の、適切性の検証に利用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
2	検討中	質問紙	卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」	1～3月	毎年	卒業予定者	カリキュラム満足度、学生支援満足度、施設・設備の満足度	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	高等教育センターからの集計結果を検証し、DP 全項目に関する学生側からの評価の指標として利用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3	実施中	成績分布表	成績分布状況のチェック	4月	毎年	全学年	偏りの大きな科目のインタビュー調査	●	●	●				コース教員	コース会議	成績評価の偏りを確認し、厳密な評価が実施されているかどうかの確認やカリキュラム改善に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
4	実施中	質問紙	学生による授業評価「授業改善のためのアンケート調査」	各学期末	毎年	全学年	各科目の理解度・到達度、カリキュラムのよい点と改善提案	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	高等教育センター長が結果を教務委員会に報告し、次年度以降のカリキュラム編成に資する。DP の項目 1 に関する学生側からの評価の指標として利用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
5	検討中	学修ポートフォリオ	学修 e ポートフォリオ	1～3月	毎年	全学年	DP に対する自己評価	●	●	●	●	●	●	学生	高等教育センター	学生の自己評価と省察を次年度以降のカリキュラム編成に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	実施中	評価チェックリスト、総合評価	卒業研究発表会	1～3月	毎年	4年生	研究発表会で発表した内容の達成度	●	●	●	●	●	●	コース教員	コース会議	DP 全項目の到達度の評価に利用する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
7	検討中	論文	卒業論文	1～3月	毎年	4年生	学習・研究成果の検証	●	●	●	●	●	●	コース教員	コース会議	DP 全項目の到達度の評価に利用する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	実施中	質問紙	新入生調査	4月	毎年	1年生	学習履歴や進路の調査	●	●					コース教員	コース会議	個々の学生の基礎学力を把握し、コースにおける指導に利用する。DP の項目 1 の基礎的な資料として利用する。	●		●	●									
9	実施中	試験	数学プレースメントテスト	4月	毎年	1年生	コースごとの平均・取得点分布	●	●					教務委員会	教務委員会	数学カリキュラムのアセスメント指標とする。評価分析結果を、1年生の指導に資する。DP の項目 1 の基礎的な資料として利用する。	●	●	●										

学部	理工学部	学科	共創理工学科	コース	応用化学コース	最終更新日	令和3年(2021年)12月17日
----	------	----	--------	-----	---------	-------	-------------------

ディプロマ・ポリシー	
1	<p>専門的知識・技能の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>化学および応用化学の核となる専門的知識および実験技術を修得している。</li> <li>幅広い教養と自然科学の基礎知識を身につけるだけでなく、さらに継続してそれらを向上させようとする意志を持っている。</li> </ul>
2	<p>コミュニケーション能力</p> <p>国内外に通用する表現力(文章表現力、プレゼンテーション能力)で情報発信し、人種、国籍、性別、世代、考え方、価値観の違いによらず、相手の感情と発言したいことを理解し、適切なコミュニケーションをとろうとする努力ができる。</p>
3	<p>創造的問題解決力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>混沌とした情報源から適切な情報を収集し、それを多角的な視点から論理的に分析することで、現在の自分の位置座標を把握し、今後進むべき課題と方向を決定できる。</li> <li>置かれている環境で、課題解決や目指す方向へ展開するための段階的な道程標(マイルストーン)群と計画を立案し、実行するための努力ができる。さらに、道程標毎の振り返りにより計画を修正しながら最終目標に到達できるための努力ができる。</li> <li>学部生活を通じて「ぶれない自己(自信)」を持つことで、感情を制御し、社会に存在する多様な価値観を尊重しながら、相手と自分の双方にとって最善の状況をもたらすように努力ができる。</li> </ul>
4	<p>社会的責務と倫理</p> <p>技術者、研究者、教育者としての責任を自覚して行動できる。</p>
5	<p>地域発展・人類福祉への貢献</p> <p>学部生活を通じて「ぶれない自己(自信)」を持つことで、感情を制御し、社会に存在する多様な価値観を尊重しながら、相手と自分の双方にとって最善の状況をもたらすように努力ができる。</p>
6	<p>生涯学習力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養と自然科学の基礎知識を身につけるだけでなく、さらに継続してそれらを向上させようとする意志を持っている。</li> <li>混沌とした情報源から適切な情報を収集し、それを多角的な視点から論理的に分析することで、現在の自分の位置座標を把握し、今後進むべき課題と方向を決定できる。</li> <li>置かれている環境で、課題解決や目指す方向へ展開するための段階的な道程標(マイルストーン)群と計画を立案し、実行するための努力ができる。さらに、道程標毎の振り返りにより計画を修正しながら最終目標に到達できるための努力ができる。</li> </ul>

教育課程と学習成果に関する基準							
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること						
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること						
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること						
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること						
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること						
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること						
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること						
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること						

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準										
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8			
1	実施中	成績分布表	成績分布の検証	11月	毎年	全学年	成績評価の分布・偏りの調査	●	●	●	●	●	●	教務委員会・教学マネジメント室	教務委員会・教学マネジメント室	成績評価の偏りを確認し、厳密な評価が実施されているかどうかの確認やカリキュラム・学生の理解度改善に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	実施中	質問紙	学生による授業評価「授業改善のためのアンケート調査」	各学期末	毎年	全学年	各科目の理解度・到達度、カリキュラムのよい点と改善提案	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	高等教育開発センター長が結果を教務委員会に報告し、次年度以降のカリキュラム編成に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	実施中	民間試験	TOEIC-IP 英語検定試験	4月	毎年	1年生	コースごとの平均・取得点分布	●	●					教務委員会	国際ビジネスコミュニケーション協会	取得点を語学カリキュラムのアセスメント指標とする。評価分析結果を次の1年生の指導に資する。			●	●		●					
4	実施中	試験	数学プレースメントテスト	4月	毎年	1年生	コースごとの平均・取得点分布	●						教務委員会	教務委員会	教務委員長が結果を教務委員会に報告し、数学カリキュラムのアセスメント指標とする。評価分析結果を次の1年生の指導に資する。			●	●	●						
5	実施中	プレゼンテーション	基礎理工学PBL/応用理工学PBL		毎年	3年生	科学的理解力、プレゼンテーション力	●	●	●	●	●	●	理工学部教員	理工学部	課題について、グループで問題点や社会情勢を整理し、科学技術を用いた解決法を提案し論理的発表する能力を評価する。その結果を次年度以降の学生指導改善に資する。			●	●	●	●					
6	実施中	成績判定資料	留年/進級調査	3月	毎年	3年生	進級要件・卒業要件残単位数の調査	●	●	●	●	●	●	教務委員	応用化学コース	留年生は指導教員を中心にして留年を繰り返さないように指導する。卒業要件の残単位数が多い学生は不足単位の履修計画について配属研究室の教員が指導する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	実施中	質問紙	卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」	1~3月	毎年	卒業予定者	カリキュラム満足度、学生支援満足度、施設・設備の満足度	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	高等教育開発センターが結果を教務委員会に報告する。結果を翌年度以降のカリキュラム編成および学生指導体制の改善に利用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	実施中	プレゼンテーション	試問会	10月	毎年	4年生	科学的理解力、プレゼンテーション力	●	●	●	●	●	●	応用化学コース全教員	応用化学コース	年度末に行われる卒業研究発表に向けた指導および学生の自己改善に利用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9	実施中	論文、プレゼンテーション	卒業研究発表	2月	毎年	4年生	科学的理解力、プレゼンテーション力、報告書作成力	●	●	●	●	●	●	応用化学コース全教員	応用化学コース	4年間の集大成として学生の自己評価と将来に向けた学生の啓発に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●